

「水土里の風景」写真 投稿様式	
題名	歴史の重みと、時代の流れを感じる白水の池
施設名	白水池
撮影場所住所	大分 <del>都道</del> 杵築 <del>市</del> 馬場尾 府県 <del>郡</del>
水土里レポーター名	松本 潤一 (杵築市土地改良区)
写真 (携帯等で撮影したデータサイズの小さいものでも結構です)	
(貼付欄)	
	
コメント (写真に対する思いや撮影の意図等、簡単なコメントを記入して下さい)	
(記入欄)	
<p>杵築市には270を数えるため池が有り、その中で白水の池は延宝年間(1673~1681)に杵築藩主松平英親公により築造された杵築市最大のため池である。杵築の稲作はため池農業といわれ、池が築かれてから田が生まれ、また新田を造成して新たな池を築造し、さらにまた池を拡張するなど、水田の開発の歴史はため池築造の歴史でもある。明治維新後は100ha以上の水田に恩恵を与えていた。また、弘化2年(1845)専頭勇平ほか数人の有志が白水池の余り水を活用して中溝から下原の地下を540m掘抜いて(隧道)、東下司の迫池と西下司の西迫池とに白水池から水を引く事にして、文久2年(1862)に工事は完成した。18年という長きに亘る工事によって、人々の</p>	

夢は叶った。白水の池は明治33年に余水吐（洪水吐）の改修をし、昭和7年に堤防の補修をして、平成25年に国、県、市のお陰により大々的な補修工事を行い水田等農業施設に水を供給するだけでなく、地域の重要な防災の役割も果たして、土地改良区の組合員が土手及び周辺の草刈り等を年2回以上行い現在も大切に維持管理をしているところである。